

## プロフィール

紛争解決論、難民学をイギリスの大学院で専攻しました。5 年ほどインターンやコンサルタント、プログラムオフィサーなどで国連機関、インターナショナル NGO を通してガーナ、パレスチナ、インド、タイ、ケニアにて平和構築事業に携わる。現在はコンサルタントとしてインドの NGO で活動しながら、今年の終わりからスリランカにてインターナショナル NGO で働く準備をしています。

### 1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

私はアジアの人々と一緒に新しい形の平和構築の方法を見つけることに非常に興味があり、アジアからの知識や価値観が平和構築の仕事に大きく貢献できると考えています。将来はアジアの若い専門家による平和構築の取り組みの発展を支援するようなお仕事もしたいと考えています。その為、本コースは幅広く平和構築に関わっていらっしゃるアジア出身の素晴らしい方々にお会いし学べる機会を頂けるといっても貴重なプラットフォームだと思い応募をしました。又、さまざまな平和構築事業に携わり活躍されている方々から論理と実用的なスキルを学べる場所にも惹かれました。

### 2. 国内研修の感想は？

仕事上で平和構築事業なので携わってはいたのですが、実際的には平和構築の一部の分野でしか活動していなかったため平和構築に対する視野が狭くなっていた事に気がつく良い機会になりました。とても経験を積まれた講師の方々や研修生にも恵まれ、とても濃い研修生活になりました。論理と現場のギャップも良くわかっている講師達から実用的なスキルを学ぶ事ができました。私生活と仕事のバランスやキャリアアップについて話し合う事も多くあり、これから長期で平和構築事業にどうやって関わっていきたいか深く考える機会にもなりました。

国内研修とは少し話が外れてしましますが、2010 年度の HPC の最終研修日は、東日本大震災が起きた 3 月 11 日（金）でした。震災直後は、研修員の私たちも状況の把握に奔走しました。ほどなくして被害の全容が明らかになり、それが自国で起きている未曾有の災害であることがわかりました。あまりにも困難なこの状況にあって、私たち研修員として、これまでの平和構築活動や研修で得た専門性や経験を活かし、少しでも貢献したいというのは一致した思いでした。

私たち研修員は、様々な点において震災ボランティアなどに参加しやすい恵まれた立場にありました。それは現場での即戦力としての資質や経験です。そのひとつとして、災害支援や国際協力の分野ですでに各人がネットワークをもっていたということがありました。たとえば、NPO 法人難民を助ける会は、地震直後に支援活動を行っていましたが、大西事務局次長は HPC 研修

期間中に講師としてお世話になっていました。そうしたつながりから大西氏に連絡をとり、2010年度の研修員合計4名が緊急支援チームに配属させて頂ける事になりました。

予想していなかった未曾有の大災害と国内での災害支援活動という状況にあって、当初は大きな戸惑いがありました。しかし、HPCでの緊急支援など研修を通して学んだ事は大変参考になりました。くわえて、HPC研修員との仲間としての絆は大きな強みになりました。東北での支援のさまざまな場面で、決断や状況判断を迫られた時も、HPCの研修があったからこそ被災地で貢献出来たのだと考えています。

### 3. 海外実務研修での活動について教えてください。

UNV-ユニセフ スリランカで主に以下の活動を行いました。

#### ① モニタリング、評価、プレゼンテーション 提案書の作成

- 子どもと女性向けに行われている心理社会介入プログラムのモニタリングと評価
- 家族合流 (Family Reunification) プロジェクトの成果を発表するまでに必要な実地計画、運営の提案
- スリランカ外務省の研修生に子ども保護についてのプレゼンテーションを行う。



【Family reunification プログラムによって叔母と再会できた女の子】

#### ② 女性のためのサポートネットワーク

- ネットワーク結成にむけてマッピングなど実地計画書の作成。
- 女性と子ども保護に関連性のある団体や政府などの会議を主催し参加をする。

#### ③ コミュニケーションとネットワーキング

- 子ども保護に関わるクラスターなどの会議に主席をし、情報交換などを積極的に行う。
- アドボカシータスクフォースに関わり、IDPの保護ワーキンググループを通して子どもの保護問題のレポートを作成し定期的に大使館、国連、ドナーに提出をした。

#### ④ 子ども保護データシステムのサポート

- スリランカでは児童保護データ収集とその質の問題があるため、これからの子ども保護データシステムを改善するための提案書をスリランカ政府と協力しあい会議やリサーチなどを行い作成する。

⑤ 知識共有

- 子どもの保護の分野における研究の関連書類の共有を行った。

⑥ UNV

- 国連ボランティアの日の活動や準備を積極的に参加しサポートした。

【マイクロクレジットのプログラムによって牛を買い子どもたちを学校にいける環境をあたえることができた母親。】



【Family Reunification プログラムによって従姉同士が再会。(左は新美さん)】

#### 4. 海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは

研修中によく考えた事なのですが、スリランカはここ一年ほど復興支援のポジションから開発支援に変わりつつあります。その様な状況で働いていた中、いかにその時の子ども保護に関して強化する為のニーズを理解しそれに向けてユニセフ、他の国連機関と適切に調整しながら対応していくかという事でした。その時々必要になる方針や応答を見つけ出し実行するという事は思っていた以上大変で政府、国連機関、NGOなどとのコーディネーションなどを含め研修中のワークショップを思い出すような出来事に遭遇しました。その中でコミュニケーション力は思っていた以上に重要だと感じる事ができました。特に分かりやすい説明の仕方や真意をもってお話をする事によって成し遂げられる事がある事を経験できたことはとても良い経験になりました。

#### 5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

私は今後インターナショナル NGO にてスリランカで児童保護の専門家として働く予定です。ユニセフにて子ども保護オフィサーとして働けた経験によってもっと専門的なお仕事をする機会を与えられたことだと思っておりとても感謝しています。ユニセフにて築いた人脈関係や知識を今後のお仕事を通してより多く保護を必要とする子どもたちをサポートしたいと考えております。

#### 6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

広島での研修の6週間はとても6週間とは思えない程充実し中身の濃いものでした。

その後、海外研修や研修後研修中に学んだ事などが必ず役に立ち今後のキャリアアップに繋がりました。平和構築分野で活躍されたい方、スキルアップを目指している方、是非参加して頂きたいと思います。

最後になりますが、平和構築における第一線の講師陣を招聘するHPの素晴らしい研修やその人脈により、経験が出来た事に心から御礼を申し上げますと共に、才能あふれる仲間達と出会えた機会をこのHPCが作って頂き、重ね重ね御礼申し上げます。この意義深い広島平和構築人材育成センター（HPC）の事業の益々の発展と卒業生の活躍を心からお祈りしています。